

学校改革！教員の時間創造プロジェクト

ニュースレター 令和2年度（2020年度）第5号

プロジェクト会議が開催されました。

第4回会議
(2020.10.7)



これまで行われた3回の会議の中で、現プログラム(H30～R2)の検証を行いながら、新プログラム(R3～R5)で取り組むべき課題について協議してきました。

第4回会議では、教職員の負担軽減が特に進んでいない、以下の3項目について協議を行いました。

部活動について

小学校

学校ごとに総合運動部の設置状況に差があり、それが負担感に繋がっているという現状があります。

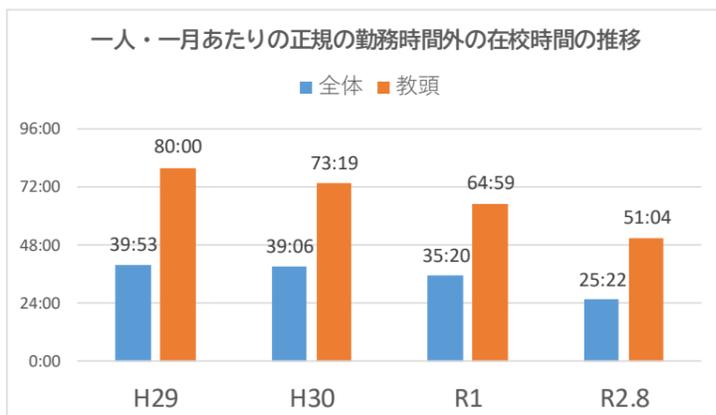
そこで、総合運動部の設置についての考え方を共有すること、部活動が勤務時間内に終わるよう日課を工夫することが必要といった意見が出されました。

中学校

中学校では、教員の80%(令和2年度)が何らかの形で部活動に携わっており、そのことが長時間勤務の要因の一つになっているという現状があります。その打開策として、部活動の指導や運営を行う外部の団体を創設する案について議論しました。

現段階としては、複数体制にするために部活動の数を減らしたり、外部指導者を確保したりというところから進めていきます。

教頭業務について



全職種の中で、在校時間が突出して多いのが教頭先生です。この現状を踏まえ、「教頭業務の整理と改善の工夫」を新プログラムの項目に位置付けて、負担を減らす取組をしてはどうかといったことを協議しました。その中で、「位置付けるだけでは意味がない。仕事の総量が変わらなければ、誰かの負担になる。」といった意見も出されました。

新プログラムの目標と取組内容について

新たな目標の設定については、これまでの「時間」に関する目標だけでなく「休暇」に関する目標も入れることについて協議を行い、年休の年間取得日数16日以上を目標にすることとしました。取組内容については、学校からの情報を好事例として載せていくことなどを確認しました。

第5回会議
(2020.11.11)



第5回の会議は、第2期(R3～R5)の新プログラムの「目標」と「4つの取組項目」について協議しました。

4つの取組項目では、「取組内容」「期待される効果」について、より実効性のあるプログラムになるよう協議しました。

班別協議では、次のような意見が出されました。

4つの取組項目について

取組項目1

持続可能な学校運営に向けた教育活動への転換

- ・中学校の部活動数を適切な数にしていくためには、熊本市全体としての基準が必要ではないか。
- ・学校行事等の見直しについて、単に行事を減らすというのではなく、子どもたちのためにという視点を大切にしなければならない。

取組項目2

新しい時代の働き方を創造するICTの活用

- ・家庭学習における活用については、家庭学習や宿題に対する教員の捉え方自体を見直していかなければならない。
- ・会議や研修の見直しは、Zoomで行う場合も、可能な限り学び合いができるような形で行う。

取組項目3

外部人材や民間活力等の活用による学校支援

- ・SSWの拡充は、いじめや不登校の児童生徒の支援に有効。成果指標で令和5年度に向けて増員になっているのでありがたい。
- ・高校入試手続は、WEB出願について、ぜひ県にも働きかけてほしい。

取組項目4

働きやすい職場環境づくりに向けた各学校での意識改革や創意工夫

- ・小学校高学年における一部教科担任制の推進については、ぜひ進めてほしい。
- ・意識改革を進めるために、人事評価に働き方改革の項目を入れてもらう。

目標について

新プログラムの目標は、教育委員会で制定した「教育職員の業務量の適切な管理等に関する規則」の、1か月について45時間、1年について360時間を超える教職員を出さないこととすることを確認しました。

前述したように、今年度のプロジェクト会議では、現プログラムの効果検証を行いながら、新プログラムの策定に向けて協議を行ってきました。これまで5回の会議を実施し、暫定的ではありますが、「第2期 学校改革!教職員の時間創造プログラム(R3~R5度)」の概要版が完成しました。以下に、新プログラムの目標と4つの取組項目について紹介します。

第2期 学校改革!教職員の時間創造プログラム

目標

目標1	正規の勤務時間外の在校時間が1か月45時間を超える教職員数	0人
目標2	正規の勤務時間外の在校時間が1年間360時間を超える教職員数	0人
当面の目標	正規の勤務時間外の在校時間が1か月80時間を超える教職員数	0人
目標3	年休の年間平均取得日数	16日以上

4つの柱と具体的取組

取組項目1 持続可能な学校運営に向けた教育活動への転換

- (1) 部活動の見直し
ア 【新】小学校
イ 【新】中学校
- (2) 教育課程の見直し
ア 【新】年間授業時数や授業時間の見直し
イ 日課の見直し
ウ 学校行事等の見直し

取組項目2 新しい時代の働き方を創造するICTの活用

- (1) 一人一台のタブレットの活用
ア 教材の共有化
イ 【新】家庭学習における活用
ウ 【新】家庭訪問や教育相談等での活用
エ 【新】保護者への通知・通信等の配付
- (2) 会議や研修の見直し
ア 【拡】学校外での会議や研修
イ 【拡】校内での会議や研修
- (3) 多様な場所で働ける環境の整備

取組項目3 外部人材や民間活力等の活用による学校支援

- (1) 【拡】再任用短時間教員の活用
- (2) 【拡】SSWの拡充
- (3) 【新】地域人材の活用に向けた取組
- (4) 【拡】外国語専科教員の配置(小学校)
- (5) 事務機能の強化
- (6) 教科書給与事務の外部委託
- (7) 高校入試手続

取組項目4 働きやすい職場環境づくりに向けた各学校での意識改革や創意工夫

- (1) 【新】教頭業務の整理と改善の工夫
- (2) 【新】通知表の簡略化
- (3) 小学校高学年における一部教科担任制の推進
- (4) 管理職マネジメント研修の充実と意識改革
- (5) 教職員のタイムカード出退勤打刻の徹底
- (6) 最終退校時刻及び定時退勤日の遵守
- (7) 【新】勤務時間の繰り上げ繰り下げ制度の積極的活用

新プログラム(案)へのご意見募集

新プログラム策定に向け、先生方の意見を参考にさせていただきたいと考えております。

第6回会議では、お寄せ頂いた意見も踏まえて、新プログラム策定の最終段階に向けて協議をする予定です。

募集期間 令和2年12月15日(火)~令和3年1月8日(金)

募集方法 校務支援システム(e-net) アンケート

学期末のお忙しい時期に重なってしまい、申し訳ありません。しかし、先生方のご意見やお気持ちを受け止めて、プログラム策定を進めたいという思いで実施させていただきました。ご意見お待ちしております。

出退勤打刻はされていますか?

教育委員会では、先生方の出退勤の打刻状況を毎日把握していますが、100%ではないのが現状です。

「Cネットの動きが遅い」「部活の後、忘れてしまった。」など、理由は様々あると思います。

しかし、打刻は、先生方が働きすぎて心身の健康を損なうことがないように、勤務実態を把握するための大切なものなのです。

打刻をきちんとすることで、先生方ご自身の「時間を意識した働き方」にもつながりますよ。
出退勤の打刻を習慣化しましょう。

先生方が、きれいな夕陽を見ながら「今日もいい一日だったな」と豊かな気持ちで帰路につく毎日を送れますよう、今後とも働き方改革を進めてまいります。学期末のお忙しい時期ですが、どうぞお体に気を付けてお過ごしください。